

(申間委員) 入院平均在院日数の推移について教えてもらいたい。また、経営状況はどこ
の病院も、人件費や光熱水費の高騰で厳しい状況を聞く。減価償却が増えている。来年度も
同様の状況か教えてもらいたい。

(岡住院長) 今年度上半期で1億5千万円の赤字になっている。内訳としては、病院移転
の費用、減価償却費用である。減価償却費は、新たに5,000万円増えた。入院稼働率は80
~85%、昨年は70%である。今年度は減価償却が上乗せ分の費用が増えた。直近の3か
月は黒字スレスレである。当院は、国や県、市からの補助金がない。そのため診療報酬の取り
漏れがないようにしたい。昨年8月から紹介重点医療機関となった。紹介状について月1回
返信を書く体制を整えたが、逆紹介は80%に留まっている。今後、100%以上を目指す。ま
た、光熱費がかなり上がっているため、計画を修正した。

(大串事務長) 4~9月は、1億5000万円の赤字だが、主に4~6月の赤字である。7月
に以降黒字になって、10月も黒字の見込み。来年度以降も、最低限の黒字になるのではな
いか。病床稼働率85%をキープしたい。

(白井看護部長) 急性期の平均在院日数15~16日。地域包括病棟も同じ。急性期の内科
15~16日、外科は、整形外科の専門性の高い疾患もあって、20日程度。地域包括病棟も在
院日数の調整をしているが。患者さんに安心してもらえるように在宅支援を充実させたい。

(久保田委員) 平均入院患者数が令和4~5年と比べて増えた。しかし、平均外来数が3
年前と比べて減少している。選定療養費の影響があるか。また、入院患者が増えた要因は何
か。どういったルートで入院になっているか。

(岡住院長) 救急に力を入れている。昨年末からドクターや救急隊に声掛けをしている。
救急応需を70%、そのうち70%の入院を目指している。救急隊からは2倍の要請になった。
入院は70%となっている。それが、紹介は増えていないが入院が増えている理由である。
ウォークインの入院はほとんどいない。当院は、選定療養費加算をしていない。千葉大やが
んセンターと役割が違うため、選定医療費を払えない方にも受け入れる。

(小柳委員) 訪問看護ステーションの新設の営業が多い。そのため、シビアになっている
印象がある。また、介護保険報酬の要件が厳しくなっている。なるべく早く、認知症、独居
の方や基礎疾患を持っている方を訪問看護ステーションにつないで、病状の安定に努めたい。
また、居宅支援事業所が半減しており、23カ所→11カ所に減っている。新規入職
のケアマネがない。事業所が高齢を理由で引退する方が多い。要支援の認定を受けていて
もサービスを受けられない方が、30人の待機になっている。訪問看護であれば、可能な限

り医療保険を利用し、介護保険の適用待つ。今後も地域連携室と共有したい。

(大塚副看護部長) 認知症の患者さんは早めに対応したいので、連携をしたい。

(岡住院長) できることを気づいていないところがある。連携をとりながら介入できるところは介入したい。

(岡田医院) 当院は内科・小児科だが、8割が内科の高齢者が多い。高齢者が多いため、一人で通院していた人が歩けない、認知症で通院できなくなるケースがあり、訪問看護ステーションにお願いしたい。また、6月からの診療報酬改定の影響で診療所は厳しいが、病院への影響はどうか。6月からなので、まだデータがないかもしれないがわかれば教えてもらいたい。。

(岡住院長) 診療報酬の介護との連携については、当院の老健と連携している。近隣の訪問診療のクリニックや介護施設と契約を結んでいる。当院は宿日直許可をとっており、夜の9時から朝まで救急をとらない。かかりつけと契約を結んでいるクリニックを受けている。6月からの診療報酬の影響のデータまだない。

(大串事務長) JCHO57 病院の相当数が赤字になっている。診療報酬改定の影響が大きい。

(尾崎委員) 地域連携室について、看護師4人で、訪問活動は、訪問看護ステーションの看護師が地域に行っているのか。

(松井地域連携師長) クリニックに訪問するのは連携室。訪問看護ステーションの師長、医師も同行している。

(尾崎委員) 勤務中、病院から出るのも大変だと思う。在宅で困ったときレスパイトも含めて、地域包括病棟に急なお願いをして、対応してもらっており、感謝している。本日は、千葉病院で行われた6階病棟の退院調整会議にも出席してきた。

(岡住院長) 窓口は地域連携室 訪問は30~50件もっと増やしたい。顔をみえる関係を構築したい。そうすれば話がスムーズになる。JCHO 病院の中で、受入れ要請から分単位で返事できる病院があるので、それを見習いたい。

(大塚副看護部長) お互いに連携を取り合いたい。

(積田委員) 腎センターがきれいになった。ベッドの間隔が広くなりプライベートが確保されている。新病院になって、導線が分かりにくかったが、サイン等でわかりやすくなった。後は、時計を増やしてもらいたい。また、以前、健診エレベータでゴミが落ちていた。目を配ってもらいたい。

(岡住院長) 時計については、対応する。グランドオープンすると透析のエレベータが近くわかりやすくなる。エレベータのゴミに関しては、今後気を配る。透析は当初 100 床の計画だが、現在は 70 床で運用している。今後増やしても透析のガイドラインのスペースは確保したい。

(村岡副院長) 近隣クリニックの先生からの紹介、救急隊からの要請をできるだけ受けるように努力する。